

琉球大学学術リポジトリ

豚のえいせいもんだい ーそろそろでんせん病のはやる頃ですー

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮城, 正夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19852

豚のえいせいもんだい

— そろそろでんせん病のはやる頃です —

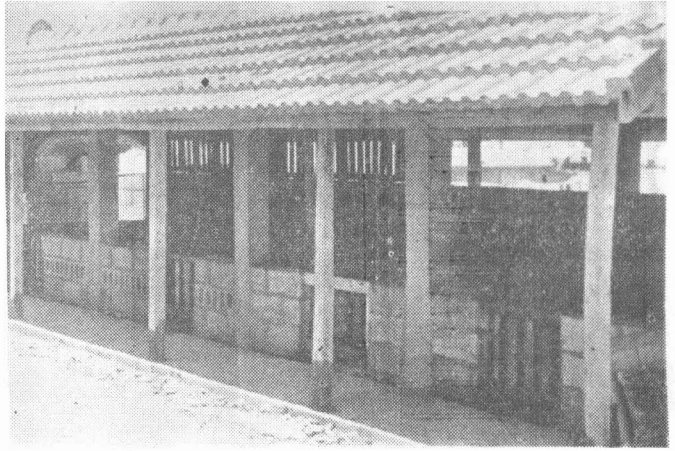
そろそろ 暑気が加わり雨が多くなり湿度が高くなると人間と同様家畜も身体の細胞の活動がにぶりいよゆる夏まけの季節に入つて来ますが、家畜伝染病の細菌や寄生虫は一年を通じ常時何処かに存在してゐて家畜の身体にしん入する機会をねらつてゐる状態にあり、特に蚊や蠅の発生はこれ等の伝染病の媒介者として見のがす事の出来ない存在で今からがその季節である。日本本土にも豚の伝染病は決して少くはないが、沖繩ほどにはひどく悩まされてゐない。これも沖繩の氣候や生活環境に影響される点が多いと思うが、幸いにして農民の自覚と政府の施策宜しきを得て、その発生も逐年減少しつつあるようで同慶に堪えない。然し、沖繩ではお互い豚伝染病の発生には次第に馴れつ子になつて来て、相当ひどく発生しない限りあわてない。もつと具体的に云うと農家に一、二頭発生した場合に届出しないで自家用屠殺してしまふ。そしてその肉を分け合うという情景に時々出会うが、この様な心がけでは豚伝染病の根絶は到底出来ない。凡そ豚伝染病に関する限り其の予防、措置又診断をする獣医 陣営の 整備は本土に其の 比を見ない位沖繩は整備されて居り豊富な体験を持つてゐる。獣疫血清製造所の設置は 豚伝染病に関する限り本土にひけをとらない機関として私共の誇りとするところである。

本年春の獣医学会で宮崎県の 家畜衛生試験所が彼地に昨年発生した豚コレラの診断に病畜の血液検査をする事により 早期に然も確実にそれが発見されて予防措置を講ずる上に非常に好都合であつたと、そしてこの診断法こそ最も信頼すべき方法だと其の検査成績を発表していたが、血液検査による診断法は沖繩では戦後早々に 実施されて来た方法であり、話は前にもどるが前記の学会の際講演者に血液検査による診断法は全く 初耳で画期的な方法だと其の内容につき詳細な説明をもとめていた一学会員があつた。筆者はやはり所変れば人の頭脳も亦変つて来るものだと感じ沖繩獣医陣営の病性鑑定に大きな信頼感を寄せた所で北海道獣医 陣の馬の伝染性貧血に対する 研究の深さ体験の豊富さと対照されるものがあると感じた。要するに病畜を自家用屠殺(密殺)する不心得者はさて置き、若し農民が沖繩の 獣医陣営を信頼し彼等に絶対の協力をするならば沖繩から豚伝染病を締め出す事も不可能ではないと確信する。豚伝染病の予防については前記獣疫予防の第一線にある 村駐在技術官の方々から絶えず 詳細な具体的説明がなされてゐるはずであり、筆者が茲にくどくど述べる要は全くないと思うが筆者は過去一カ年北海道にあつた為め彼地の人々の 獣疫に対する心構えを知る機会に恵まれたので彼等の考えをのぞかせながら豚伝染病

の二三の問題にふれ読者の参考にしたと思う。

一、豚コレラについて

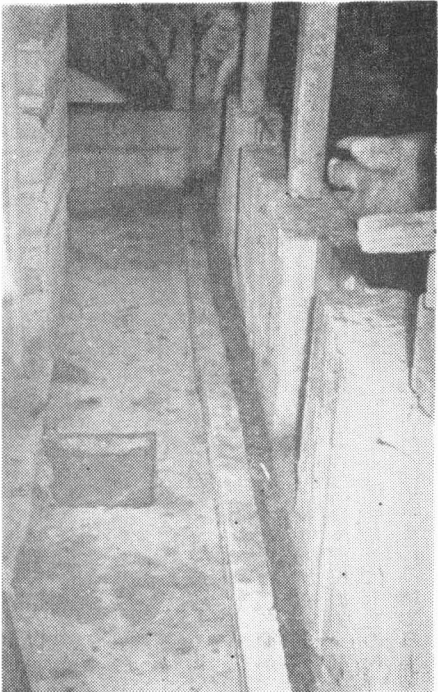
北海道大学山極博士の 著書におよそ物事には出来る相談と出来難い相談とがある。獣疫予防の場合にも正に左様で 現在の獣医界ではどの獣疫が予防出来易く、どの獣疫が予防出来難いかを先ず正視する必要があるとして、予防出来易いものとして牛疫や狂犬病を挙げ、出来難いものとして「結局獣医界に残され専門眼から見ても 真実の難問題は豚コレラと口蹄疫の二つと見る」と述べてゐる。この両者には奏効確実な予防液もあり血清もあるが、なかなか一筋縄ではゆかないと極言してゐる。米国においても農林省の発行する 農民向け普及啓書に米合衆国一カ年の被害頭数は六〇〇万頭以上と報じてゐる。そして 其原因が病豚肉を用いた料理の残さ及び残飯にあつたと記述してゐる。文献によると冷凍病豚肉で九五日後病畜が証明され、塩漬ハムが八〇日間病畜を保存してゐたと報じてゐる。如何に本病の病毒の抵抗力が強いかを物語つてゐる。又本病毒で一人畜舎が汚染されると 仲々其病毒は滅殺出来ない。専門博士は 本病発生豚舎の消毒後三カ月後に新豚を收容したところ感染し更に 消毒し約三カ月後に豚を入れたが再び発生を見終に 豚舎を焼却した例があると云つてゐる。これは甚だ異例とされるが消毒が完全でなく、病毒が残存してゐた結果ではあるが良条件下では相当期間病毒生存し 後日発生の原因となる事が考え得る。更に次の原因と考えられるものに所謂萎縮豚(俗称クフアヤ)がある。これは保毒豚ではあるが外観上何等の病状のないもので本島の様な常在地における 恢復豚或は毒血と免疫血清との共同注射豚に時々観察される。此に依



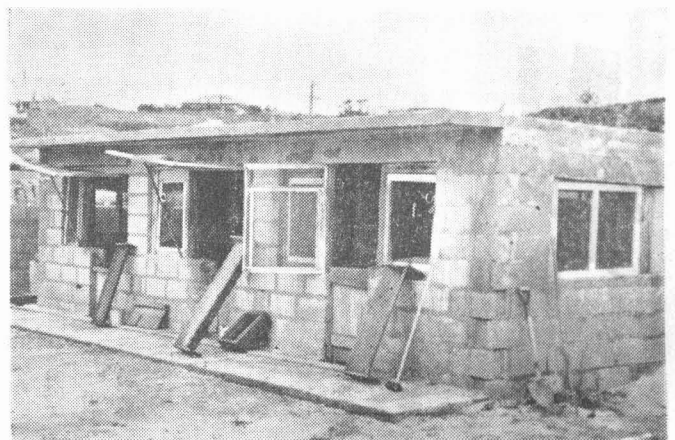
上・宜野湾村真志喜区宮城氏の豚舎で通風、はい水 その他がとともよく出来ています。

下・小禄区字大嶺、赤嶺忠貞氏の豚舎です。飼槽（トレー）の日光消毒、蠅をのける窓の金あみ等 見るからにえい生的です。

左上・将来の沖縄の養豚業をになう女性、それは小禄区、高良三郎氏のおジョウさんです。



左下・小禄区、字大嶺、赤嶺佐市氏の豚舎で豚舎の入口に 消毒つぼをもうけてあるのはみんなが学ぶべき点です。



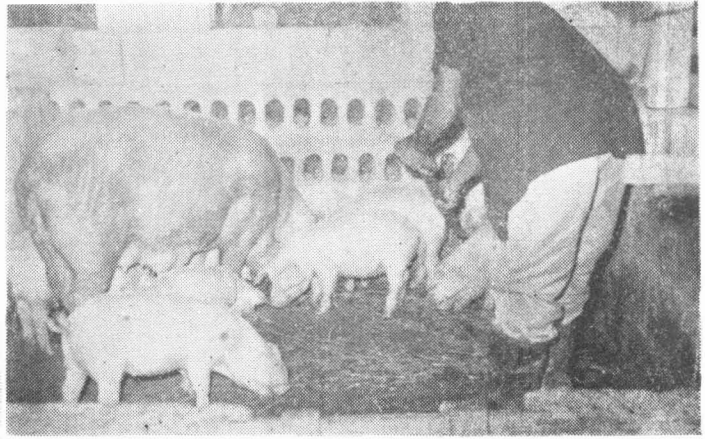
右上、那覇市小禄、大嶺区

赤嶺佐市氏の豚

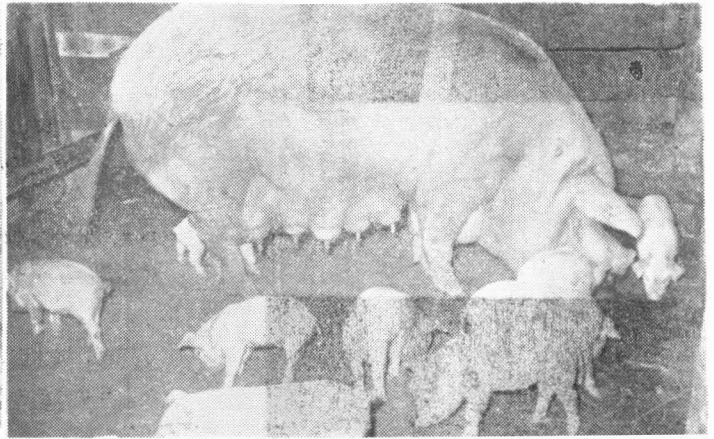
右下、〃 〃

金城仁太郎氏の豚

下、コヤシダメは常にフタをしまし
しよう。小禄区高良三郎氏の
豚舎の肥ダメ。



かわいたお部屋の子ブタさん大よろこび！



つて考えると病豚は治療する事は絶対止めねばならないという事で貴重な種豚であつても思い切つた処置が取られねばわさわいを及ぼすという事である。

二、豚タンダクについて

山極博士は日本の場合豚丹毒の予防は必ずしも出来難い相談の部類に入るのではなく、今後に於ける努力次第によつては何んとか出来ると思われれる節があると述べている。事実此疾病は抗生物質剤や其他化学製剤により、処置適切な時は百%鎮圧出来又其予防液も効果がいちじろしく豚コレラにもこの様な特效薬が発見されないかと切望される所である。然し茲で農家の人々に望まれる事は豚が発熱し食餌がないと直ぐ素人療法で抗生物質剤を用いない事である。此は人間の場合も同様で無暗に投薬或は注射して好ましくない結果を招来する様になる場合が多いので、つゝしみたい点である。北海道でも紋別郡に豚の新しい病気が発生したが農民が直ぐ抗生物質剤や、化学薬品を用いとうとう手に負えなくなつたものを獣医師に診せたという話を聞いたが其為には発見も遅れ適切な処置も出来ず相当な被害を招来した様である。以上沖組で最も多発し且つ被害の大きい二大伝染病について其の病性の要点を申し上げましたが、其他に仔豚に相当な罹患率を示す蛔虫症に関心を払う様附記して本稿を終る事にする。

(宮城正夫)

